

令和6年度 横須賀美術館運営評価委員会

●横須賀美術館運営評価委員会（令和6年度第1回）

日時：令和6年（2024年）8月1日（木）14時00分～ 15時45分

場所：横須賀美術館 ワークショップ室

1. 出席者

委員会	委員長	小林 照夫	関東学院大学名誉教授
	委員（委員長職務代理者）		
		菊池 匡文	横須賀商工会議所専務理事
	委員	柏木 智雄	横浜美術館副館長
	委員	関口 洋輔	ラビスタ観音崎テラス支配人
	委員	三浦 匡	横須賀市立根岸小学校校長
	委員	倉田 睦	市民委員
	委員	前波 美雪	市民委員
館長	文化スポーツ観光部長	倉林 孝英	
事務局	美術館運営課長	岡本 剛彦	
	学芸担当課長（学芸員）	富田 康子	
	美術館運営課総務係長	下田 哲央	
	美術館運営課（学芸員主査）	工藤 香澄	
	美術館運営課（学芸員主任）	日野原清水	
	美術館運営課（総務係主任）	下田 優美	

2. 議事

令和5年度の運営評価について

3. その他

今後のスケジュールについて

会議録

【開会】

〔事務局・下田哲〕：定刻になりましたので、「令和6年度 第1回横須賀美術館運営評価委員会」を開会いたします。

本日は、お忙しい中、集まりいただき、誠にありがとうございます。私は、委員長に引き継ぐまで司会を担当させていただきます美術館運営課総務係の下田と申します。よろしくをお願いいたします。

まず、本日は現状いらっしゃる委員7名の方全員にご出席いただいております。

また、本日傍聴者はいませんのでご報告いたします。

それでは、さっそくお手元の次第に沿って、進行させていただきます。

【1 あいさつ】

〔事務局・下田哲〕：最初に、事務局を代表しまして、館長・文化スポーツ観光部長の倉林より、ご挨拶させていただきます。

〔倉林館長〕：横須賀美術館長、文化スポーツ観光部長の倉林でございます。

本日は、ご多忙の中、令和6年度 横須賀美術館 第1回運営評価委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、本日の委員会開催にあたり、委員の皆様には、お忙しい中、令和5年度事業に対する二次評価を行っていただき、重ねてお礼申し上げます。本日の委員会では、委員の皆様からいただきました二次評価について、ご議論いただき、令和5年度の評価を確定いたします。

委員の皆様のご意見を可能な限り反映し、一層の努力や工夫を凝らして、多様な学びを生み出す美術館を目指してまいります。

昨年度は5月に、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に移行され、横須賀美術館におきましても、ほぼ計画どおりの活動を行うことができました。特に年度末は、「日本の巨大ロボット群像」展や「鈴木敏夫とジブリ展」に多くの方にお越しいただきました。

「鈴木敏夫とジブリ展」には3月から6月にかけて約17万人の方に観覧いただき、これは1企画展としては過去最多の観覧者数となります。その流れもあり、今年度は4月から6月までで、開館以来の年間観覧者数の最多を更新しております。

今後は、大規模なコンテンツ、市外からも多くの方にお越しいただける魅力的な企画展はもとより、社会教育施設としての機能をしっかりと堅持し、横須賀美術館を活用してまいります。

さらに美術館を発展させるためにも、本日は委員の皆様から、ぜひ、忌憚のないご意見を頂戴いただければ幸いです。

本日もよろしくをお願いいたします。

【事務局紹介】

[事務局・下田哲]：ここで、本年4月1日付の人事異動により、学芸主査だった富田が、新設のポストである「学芸担当課長」に昇格いたしましたので、ご挨拶させていただきます。

【2 議事 令和5年度の運営評価について】

[事務局・下田哲]：次に、本日の資料の確認をさせていただきます。

まず、机上去用意させていただきましたものは、次第、資料1「委員名簿」、資料2「委員による二次評価まとめ」、資料3「運営評価委員会スケジュール」、資料4「【修正版】令和5年度 評価報告書（一次評価）」、資料5「令和5年度 評価報告書（参考資料集）」の5つです。

以上が本日の資料です。不備等ございませんでしょうか。

それでは、小林委員長、議事の進行をお願いいたします。

[小林委員長]：それでは、次第に沿って、議事を進めます。

議事（1）令和5年度の運営評価について、事務局から評価の進め方、報告書の体裁等の説明をお願いします。

[事務局・下田哲]：資料2「委員による二次評価まとめ」ですが、皆様からお送りいただきました二次評価の結果を事務局でまとめたものです。

この資料をもとに、後ほど、ご議論いただきます。ご承知のとおり、①から⑧までの目標があり、それぞれに「達成目標」と「実施目標」があり、16の評価項目となっております。

二次評価確定の進め方について、ご提案させていただきます。最初に①から⑧の目標ごとに、事務局から一次評価の理由について、簡潔に説明を行います。その後、委員の皆様には、委員会としての二次評価についてご議論いただき、評価を確定していただきます。

また、評価報告書の体裁ですが、コメントは同様のご意見を1つにまとめ、すべて掲載したいと考えます。よろしければ、これまでのとおり、コメントの後ろにかっこ書きで記名させていただきたいと考えております。以上です。

[小林委員長]：それでは、進め方、評価報告書の体裁についてですが、いかがでしょうか。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：それでは、まず、事務局から一次評価の内容とその理由について、①から順に、説明をお願いします。

[事務局・下田哲]：資料1「運営評価報告書（二次評価のまとめ）」及び「評価報告書（一次評価）」に基づき、目標ごとにご説明申し上げます。

それでは、評価報告書（一次評価）の1ページをご覧ください。

私からは、「I 美術を通じた交流を促進する」のうち、「①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」の事業計画及び目標について、ご説明いたします。

こちらの一次評価は「達成目標」をS、「実施目標」をSとさせていただきます。

まず、達成目標についてです。評価「S」としましたが、1ページ下部の〔一次評価の理由〕に記載の通り、年間観覧者数 118,000 人という目標設定に対し実績は、162,022 人となり、達成率 137.3%と目標の 120%を上回ったことから、一次評価基準に従い「S」評価としました。

「162,022 人」は、過去観覧者数が最も多かった開館年である平成 19 年度の 165,961 人に次ぐ2番目に多い年となっています。なお、令和6年度は6月18日まで「鈴木敏夫とジブリ展」を開催していたこともあり、7月末まで既に年間観覧者数が 175,000 人を超えており、過去最高の年間観覧者数になることが確定しています。

2ページをご覧ください。一番上の表に記載がある通り、荒井良二展が 30,000 人予測のところ約 35,000 人、巨大ロボット群像展が 20,000 人予測のところ約 31,000 人、と2つの企画展で見込みを大きく上回る観覧者にお越しいただくことができました。

また、年度当初に予定がなかった「鈴木敏夫とジブリ展」を3月20日から開催し、令和5年度中は開催日が12日間しかありませんでしたが、この間に約 26,000 人にお越しいただくことができました。

3ページをご覧ください。次に、実施目標についてです。評価「S」とした理由を記載しています。大きく3つございます。

一つ目、これまで開館前にエントランスにて開催していたコンサートを、開館中の展示室内で開催し、横須賀美術館の建物の特徴である吹き抜けの地下ギャラリーで作品鑑賞とあわせて音楽を楽しんでいただく新たな取り組みを行いました。

二つ目、夏季期間中に柔軟に団体観覧の受け入れを行いました。

三つ目、季節の花情報とあわせたSNS投稿キャンペーン「アジサイ割」を実施したほか、テレビCMやドラマ撮影、有名アーティストのミュージックビデオ撮影など影響力の大きな商業撮影の積極的な受け入れを行いました。

引き続き、3ページをご覧ください。雑誌等の掲載件数の表を記載しています。令和5年度は全 498 件の情報掲載となりました。この表には令和2年度以降の記載しかありませんが、過去開館以来さかのぼっても最大の件数となっています。これは表の下から具体的に記載している、様々な方法を使用した、積極的な情報発信の結果だと考えています。

4ページ中段の〔参考〕をご覧ください。SNSのフォロワー数ですが、昨年度の3月31日と比較して、Xが1,700人、インスタグラムが3,800人増加しています。

5ページをご覧ください。こちらには、昨年度開催した美術館が主催や共催のコンサート、イベントを掲載しています。先ほども申し上げましたが、「Monthly Welcome Music」

は、令和5年度から地下所蔵品展示室内で開催しています。

6ページをご覧ください。外国人観覧者数の集計を表で記載しています。こちらは、美術館の受付にてチケットを購入した外国人の数を受付スタッフがカウントした結果です。「鈴木敏夫とジブリ展」開催前までで約3,000人が来館しており、従来に比べて大きく増えています。

7ページをご覧ください。〔(4) 団体集客の推進〕の下に団体受け入れ数の表を掲載しています。こちらは、特に夏季の期間、多くのバスが来館してくださいました。新型コロナウイルス感染症の影響が出る前の年で年間150団体程度でしたので、令和5年度はかなり多い年度となりました。

8ページをご覧ください。鈴木敏夫とジブリ展について、記載しています。

タイトル下の文章に記載したとおり、「鈴木敏夫とジブリ展」は、横須賀市と民間企業が出資した開催委員会を設置して、開催しました。これにより、民間企業が持っているパイプやノウハウを生かすことが可能となり、「訴求活動による集客促進」「民間企業との連携」「地域との連携」についても、過去に例がない規模、手段により実施することができました。本報告書では、令和5年度中に実施した主なものを以下に記載しています。

①の説明は以上です。

〔富田担当課長〕：9ページをご覧ください。「② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる」について、ご説明いたします。

この項目の一次評価は、達成目標をC、実施目標をBといたしました。

まず、達成目標は「市民ボランティアの活動者数および協働事業への参加者数延べ1,700人」ですが、今年度の参加者数は1,226人であり、72.1%の達成率であったため、一次評価を「C」としました。目標を達成できなかった理由としては、ボランティアイベントの規模が天候により縮小されたこと、また、新型コロナのため中止していたギャラリートークの再開時期が11月と、当初想定よりも遅くなったことが挙げられます。

一方、実施目標は、10ページ中段にある2項目です。いずれの項目に関しても、各活動において、ボランティアが積極的に参加し、やりがいを持っていきいき活動していることが感じられたため一次目標を「B」としました。

令和5年度は、数年ぶりの本格的な活動再開にあたってボランティアを新規募集し、従来メンバーに加えて、ギャラリートークボランティア3名、小学生美術鑑賞会ボランティア4名、みんなのアトリエボランティア5名の計12名が新たに加わりました。

また、ギャラリートークの再開に際し、従来のツアー形式ではなく、作品の前でボランティアがお客様を迎える形式を試してみたところ、予想以上に多くのお客様に足を止めていただくことができ、手ごたえを感じています。

小学生美術鑑賞会ボランティアについては、1月以降に来館した小学校を対象に、対話鑑賞を試行しました。

プロジェクトボランティアについては、天候により規模の縮小があったものの、計画通りに年3回のイベントを実施することができ、全般に、順調な再スタートとともに、今後に向けたポテンシャルを十分に発揮することができたと感じています。

②については以上です。

[事務局・工藤]：12ページをお開きください。「③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす」について、ご説明いたします。

こちらの一次評価は、「達成目標」はA、「実施目標」もA、といたしました。

まず、達成目標については、来館者アンケートの結果「企画展満足度 80.0%」をかかげ、目標を超える高い満足度をいただきました。

各項目についての総合での満足度を見ていくと、企画展では「作品」「配置・順路・照明」が80%台半ばから90%以上の数値を出しています。一方「解説」については70%台から80%台と数値のばらつきがみられますので、個々の展覧会それぞれで理由を分析しております。

またアンケートは、従来の紙形式に加え、令和5年8月から神奈川県電子申請システム e-kanagawa でも回答を受け付けています。展示を見た人に回答いただけるよう、回答ページに接続する二次元コードはアンケートコーナー（本館1階、谷内六郎館）と地下所蔵品展示室に掲示しています。

企画展の満足度は総合的に概して高かったため、達成目標を「A」としました。

続いて実施目標についてご説明いたします。

令和5年度はバラエティに富んだ展覧会、そして3月下旬から「鈴木敏夫とジブリ展」を行い、通常よりも本数が多く7本となりました。ジブリ展についての満足度等の分析は令和6年度で行う予定です。第4期の所蔵品展については、当初とスケジュールを変更し、それに伴って、朝井閑右衛門作品を2階ギャラリーで小展示を行いました。

また、企画展以外にも所蔵品展示室の一部を使用し、箱根との連携展や、田浦のアーティスト村の作家を紹介、エリア作家の展覧会など、所蔵品だけではなく中規模の企画を開催しています。

教育普及事業については、対面型の事業を再開し、講演会やワークショップに加え、音楽会やライブペインティングなど幅広い事業を行うことにより、一定の成果を上げることができました。

図書室については、美術史・デザイン・建築・写真など幅広い分野の美術図書、展覧会図録、所蔵作家に関連する資料、子ども向けの美術入門書、定期購読雑誌などを収集・公開し、多くの来館者に利用されています。室内環境の整備・維持に努め、レファレンスサービスやコピーサービスに対応し、図書室の利用を支援しています。

これらを総合的にみてA評価といたしました。

[富田担当課長]：18ページをご覧ください。「④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する」の一次評価についてご説明いたします。

この項目の一次評価は、達成目標を「B」、実施目標を「A」といたしました。

まず、達成目標は「中学生以下の年間観覧者数 22,000 人」ですが、令和 5 年度の中学生以下の年間観覧者数は 21,035 人でした。これは、令和 4 年度の 16,841 人に比べ約 25% の増加ではありますが、目標に対する達成率としては 95.6% であるため、一次評価を「B」としました。

達成目標に届かなかった理由としては、特にゴールデンウィークにおいて、中学生以下の観覧者がやや低調だったことが考えられます。新型コロナウイルスの感染症法上の 5 類への移行がゴールデンウィーク明けでしたが、美術館でも、以後の来館者数は順調に回復していると見ています。特に、2 月から開催した「日本の巨大ロボット群像」展、3 月に開幕した「鈴木敏夫とジブリ展」など、テレビ等でのなじみのあるテーマの展覧会では、幼児の来館が増えており、家族層にアピールできたことがうかがえます。このような経緯を通してみると、年間では目標に近い数値となりました。

一方、実施目標ですが、こちらは、20 ページにあるとおり、「学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する」から、「鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する」までの 6 項目です。

令和 5 年度は、児童生徒造形作品展と小学生美術鑑賞会、ワークショップ等の事業を当初の予定通り実施し、安定的に参加者を得ることができました。

また、令和 4 年度に取り組み始めた、谷内六郎作品にちなんだ学校給食の提供を令和 5 年度も継続することができました。以上の一連の成果を踏まえ、実施目標の一次評価は「A」といたしました。

④については、以上です。

[事務局・日野原]: 22 ページをご覧ください。「⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」についてご説明いたします。

「達成目標」につきましては、環境調査の実施年 2 回、美術品評価委員会の開催年 1 回です。こちらは両方とも実施、開催できたことから一次評価を「A」としました。

続きまして「実施目標」につきましては、「収集方針に基づき、主体性を持って積極的に収集活動を行う。」から 4 項目です。こちらは、一次評価を「A」といたしました。

一次評価の理由は、23 ページに記載のとおりですが、令和 5 年度もふるさと納税等によって美術品等取得基金に寄せられた寄付金での作品購入が継続できており、作品の保管・展示環境の維持、作品の修復、額装、貸出についても問題なく進められました。

なお、令和 5 年度に新たに収蔵した作品は、令和 6 年度第 4 期所蔵品展でお披露目する予定です。会期は 3 月 1 日から 5 月 11 日です。

⑤については、以上です。

[事務局・下田哲]: 次に、25 ページをご覧ください。「⑥ 利用者にとって心地よい空間、

サービスを提供する」についてです。

こちらの一次評価は、「達成目標」、「実施目標」とともにAとさせていただきます。

まず、達成目標については、その下の〔一次評価の理由〕の欄の表でお示ししており、来館者アンケートの結果「館内アメニティ満足度 94.5%」、「スタッフ対応の満足度 89.8%」とどちらも目標の 80%を超える高い評価をいただきました。

以上から一次評価は「A」とさせていただきます。

26 ページをご覧ください。実施目標「A」の評価理由については、中段以降に項目ごとに記載させていただいております。

下部の表に記載していますとおり、昨年度は、金額が大きい設備の修繕を複数実施しました。これは開館以来 17 年が経過し、更新していない非常用発電機、空調熱源設備等に故障が発生しました。現在、空調熱源設備やその他に不具合が発生している防火扉などについて、令和 7 年度の設備更新に向けて協議を進めています。その関係で、令和 7 年の秋以降、美術館は休館となる見込みです。休館期間や修繕工事の範囲が決まりましたら、また報告させていただきます。

27 ページをご覧ください。ここに記載している各事業者とも日々緊密なやり取りをしながら、来館者が気持ちよく過ごしていただけるような運営を心がけています。

なお、令和 5 年 4 月からレストラン アクアマーレがキッチンカーを出店しており、飲食の選択肢の増加、レストランの混雑緩和などにつながっています。

以上で、「⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する」部分の説明を終わります。

〔富田担当課長〕：続いて 29 ページ「⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える」について、ご説明申し上げます。この項目の一次評価は、達成目標を「S」、実施目標を「A」といたしました。

達成目標は「福祉関連事業への参加者数延べ 175 人以上」ですが、令和 5 年度の参加者数は延べ 254 人でした。これは目標の 140%以上を達成しています。

当初目標に対して実際の参加者数が大きく上回った理由は、予定通り対面ワークショップを実施し、一定の参加者を得られたこと、さらに、市内作業所等を対象として想定していた福祉イベントにおいて、放課後デイまで対象を広げ、開催日数を増やしたことによるものです。これまでの活動の中でつかんできた潜在的なニーズを、うまく活動に結びつけることができた結果であると認識しています。

続いて、実施目標ですが、こちらは 30 ページにある、3 項目になります。

令和 5 年度は、「みんなのアトリエ」においては、さまざまな感覚にフォーカスしたプログラムを実施することで、全体として活動の幅を広げることができました。

教材制作においては、谷内六郎作品触図を鑑賞する際に、補助的に使うことができる部

分拡大触図を制作し、より深い鑑賞ができるよう工夫しました。

また、福祉関連イベントにおいては、参加対象を、特定の障害や特性がある方に限定せず、さまざまな方が参加できるよう見直しました。

託児も、広報から実施にいたるまで、問題なく取り組むことができました。

以上の成果を踏まえて、実施目標の一次評価は「A」といたしました。

⑦については、以上です。

[事務局・下田哲]：次に32ページをご覧ください。「⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する」についてです。

一次評価は達成目標、実施目標とも「A」とさせていただきます。

達成目標の評価の理由は、同ページ中段以降に記載させていただきました。

電気で少し目標を上回ってしまいましたが、これらは多くの来館者がお越しいただいたことによることが理由と考えられます。事務用紙使用枚数については、システムによる業務の効率化が進んでいるため、印刷枚数が減ったことが理由です。

33ページをご覧ください。実施目標を「A」と評価した理由は、記載の通りです。

以上で、「⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する」部分の説明を終わります。

[小林委員長]：それでは、二次評価の議論に入る前に、今の事務局の説明に対する質問はありますか。

[全委員]：ありません。

[小林委員長]：ないようですので、二次評価の議論に進みます。

[小林委員長]：まず、目標①の「達成目標」ですが、どうですか。

[柏木委員]：展覧会は、「鈴木敏夫とジブリ展」のようなブロックバスター展を誘致し、観光面を高めることも必要、コアな美術ファンのための展覧会を着実に実施することも必要で、それらのバランスが重要だと思います。

「鈴木敏夫とジブリ展」の観覧者を加えなくても目標を超えており、「S」評価でよいと考えます。

[関口委員]：「鈴木敏夫とジブリ展」などの開催により、集客につとめていると客観的に判断し「S」評価としました。

[前波委員]：達成目標の人数設定の根拠については、先のご説明の中でいただきました。

[菊池委員]：令和4年度は運慶展の影響が強かったです。令和5年度はジブリ展がなくても誇れる数字であり、企画と運営が上手くいった結果の数字だと思います。

[小林委員長]：横須賀美術館を横須賀市の貴重な都市資源であるという捉え方は重要であると考えられ、また興味深いです。

[小林委員長]：それでは、①の「達成目標」の評価は、「S」でよろしいでしょうか。

[全委員]：賛成です。

[小林委員長]：次に、「実施目標」については、全員「S」と評価しておりますので、評価は「S」でよいかと存じますが、委員にご意見いただきたいと思います。

[柏木委員]：数値の達成目標が「S」評価レベルに達している場合、実施目標で取り組むべきことに取り組み、新たな取り組みにもチャレンジしているということが数値に表れていることと考えますので、実施目標も「S」と評価しました。

[関口委員]：各媒体での販促活動が大きく行われていると考え、S評価としました。

[倉田委員]：たくさんの方を横須賀に呼び込むきっかけとして美術館を有効活用されていると思います。若い方に是非来てほしいので、アプローチを続けていただきたいです。

[前波委員]：自分の生活範囲である横浜市内では横須賀美術館の広報物を見かけることはあまりありませんでしたが、来場者数で成果に結びついて出ているので、効果的な広報ができていたと考えます。

[小林委員長]：「鈴木敏夫とジブリ展」に際し、バスが増便されていて驚きました。多くの来館者に対応できていたと思います。

[小林委員長]：それでは、①の「実施目標」の評価は、「S」でよろしいでしょうか。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：次に、②の「達成目標」ですが、どうですか。

[菊池委員]：不可抗力の影響があったということで、やむを得ずC評価としました。

[関口委員]：地域をより活性化させられるような企画、イベントに期待したいと思います。

[倉田委員]：天候に恵まれずイベントが縮小されたことだけが理由で目標を達成できなかったのであれば、問題ないと思います。

美術館ボランティアは、例えば掃除ボランティアや駅前花壇ボランティアに比べてハードルが高いと感じます。生涯学習ができる場として発信をするなど、工夫されてもよいと思いました。

[前波委員]：天候が理由であれば致し方ないと思います。

[小林委員長]：「横須賀美術館のボランティア活動は労働ではない」と評価報告書に明記されているが、さらにその先に進んでもらえたらと思います。

[小林委員長]：それでは、②の「達成目標」の評価は、「C」でよろしいでしょうか。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：次に、②の「実施目標」は、どうですか。

[柏木委員]：数値で評価する目標は数値で評価するしかありません。しかしながら、コロナ禍で一度リセットされた取り組みを再起動するというのは組織的な努力が必要で、その観点からみると、前年度から参加者が増えており、果敢な取り組みもしているというのは、高く評価すべきと考えます。そのため、実施目標は「A」としました。

[関口委員]：横須賀市民の子ども向けのイベントの増加に期待したいと思います。

[倉田委員]：市民の生涯学習の場として機能していることを評価します。

[前波委員]：ボランティアの方に作品の説明をしてもらったことがあるが、楽しそうにいきいきと活動されていました。素晴らしい活動の場だと思います。

[三浦委員]：コロナ禍からの状況の変化を評価して「A」と評価しました。

[小林委員長]：A評価の委員とB評価の委員がいますが、その点いかがでしょうか。

[柏木委員]：数値はC評価かもしれませんが、その内容は「A」と評価しました。しかし、委員全体で総合的にBと評価するのであれば異議はありません。

[菊池委員]：「B」と評価しましたが、質は落ちているわけではないので、A評価でもよいと思います。コロナ禍の前は、この項目はほとんどA評価を達成していたと記憶していま

す。

[倉田委員]：議論を経て「A」でよいと思いました。元々内容は大変素晴らしいと評価しています。

[前波委員]：ボランティアの方は素晴らしい活動をされており、質が高いと評価しています。「A」でよいと思います。

[小林委員長]：評価は検討して決めていくものです。それでは、②の「実施目標」の評価は、総合的には「A」ということでいかがでしょうか。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：次に、目標③ですが、まず「達成目標」について、いかがでしょうか。

[柏木委員]：「解説」に関する評価は、一般的に低く評価される傾向が見受けられます。文章の理解も読む人によります。それを踏まえても高い評価がされています。

[関口委員]：「A」でよいと評価します。

[小林委員長]：それでは、③の「達成目標」の評価は、「A」でよろしいですか。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：次に、「実施目標」については、いかがですか。

[菊池委員]：所蔵品展の「解説」に対する満足度が、令和4年度から急に低下していますが、考えられる原因は何でしょうか。

[事務局・日野原]：理由として考えられる2点を挙げさせていただきます。

まず、令和3年第2期所蔵品展から、作品解説と作家略歴をスマートフォンアプリ「ポケット学芸員」で公開しました。第1期までは、キャプション横に作品解説と作家略歴がすべて併記されていましたが、第2期からは、キャプションに「ポケット学芸員」の作品番号を記載する形式としました。作品の横に文字が少なくなったことで、「解説が足りない」という評価がついた可能性があります。作品解説、作家略歴は「ポケット学芸員」を参照してもらいたいのですが、アンケート回答者のうち「ポケット学芸員」の利用率は10%未満であり、高くはありません。

また、令和2年度にアンケート項目の見直し、変更を行いました。「作品の配置や、照明のあて方は適切だった(配置、照明)」という選択肢を「作品解説や順路はわかりやすかつ

た（解説、順路）」に、「作品の配置や順路、照明のあて方は適切だった（配置、順路、照明）」を「作品解説など鑑賞の助けは十分だった（解説）」に変更しました。

コロナ禍を経て館の活動や来館者数が回復したのが令和4年度からであり、これらの変更の影響が令和5年度の評価から出てきた可能性があります。

[菊池委員]：「ポケット学芸員」を周知して満足度を上げていく方向性なのか、併記する形式に戻したり拡充したりする方向性なのか、いかがでしょうか。

[富田担当課長]：まず「ポケット学芸員」の認知を高めたい、というところがあります。「ポケット学芸員」で解説を見ることができる、きくことができる、ということを今以上にわかりやすく来館者に伝えていくことが重要だと考えます。

「ポケット学芸員」はテキストも音声もあり、英語にも対応することができるので展開のポテンシャルが高いものであります。

[菊池委員]：方向性に賛成します。自然に誘導されるような流れを強化することができれば、評価もあがっていくと思います。引き続き取り組んでいただきたいです。

[柏木委員]：多くの方がお越しになるブロックバスター的取り組みと、コアな美術ファンやよく美術館を利用する層に向けた企画とをバランスよく取り混ぜて実施されているということが評価できる点だと考えます。

「ポケット学芸員」の普及については、タブレットやスマートフォンの利用に不慣れな人への浸透は時間がかかるので過渡的な取り組みは必要だと思いますが、いずれはタブレットやスマートフォンを利用した取り組みに置き換わっていくと考えられるので引き続き対策を取りながら取り組みを進めていただけたらよいと思います。

[前波委員]：展覧会のテーマが幅広く、さまざまな関心の人の興味をひけていると思います。

[小林委員長]：それでは、③の「実施目標」の評価は、「A」でよろしいですか。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：次に、④の「達成目標」ですが、いかがですか。

[菊池委員]：努力はしているのですが、数値目標のため「B」と評価しました。

[小林委員長]：それでは、他にご意見ないようでしたら、④の「達成目標」の評価は、「B」でよろしいですか。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：次に、「実施目標」については、いかがですか。

[柏木委員]：目標に対しては届かない数ではありましたが、年度を重ねるごとに参加者は増えています。改善すべき点の改善に着実に取り組んでいるからだと考え、評価します。

[前波委員]：参加対象にあわせて様々な工夫をされている点が素晴らしいです。

二次評価時のコメントにも上げましたが、「つまらないけどおもしろかった」という中学生の感想が興味深かったです。知ってもらい、関わってもらいという最初のハードルがありますが、そうしたことにしっかりと働きかけられているから出てきたコメントかと思いました。

[小林委員長]：それでは、④の「実施目標」の評価は、「A」でよろしいですね。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：次に、目標⑤の「達成目標」ですが、いかがですか。

[柏木委員]：達成目標は数値目標をクリアしているのでA評価でよいと考えます。

実施目標の範疇になりますが、今回森山大道作品の購入が叶いました。また作品寄贈の受け入れもありました。作品を購入できるということは、美術館に良い影響を及ぼします。購入資金を基金に貯めて作品を購入するということの継続を期待しています。

[小林委員長]：それでは、他にご意見ないようでしたら、⑤の「達成目標」の評価は、「A」でよろしいですか。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：次に、「実施目標」について、いかがですか。

[前波委員]：細かく記録されていて、しっかりと管理されているのだと感心しました。

[小林委員長]：作品データベースの公開と画像データの管理方法の検討について、ぜひ前に進めて行っていただきたいです。

[小林委員長]：それでは、⑤の「実施目標」の評価は、「A」でよろしいですね。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：次に、目標⑥の「達成目標」ですが、いかがですか。「A」でよろしいですか。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：次に、「実施目標」については、いかがですか。

[菊池委員]：高い水準を維持しており素晴らしいです。「二次評価まとめ」にもコメントを追記したいです。

[小林委員長]：それでは、⑥の「実施目標」の評価は、「A」でよろしいですね。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：次に、目標⑦の「達成目標」については、いかがですか。「S」でよろしいですか。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：次に、「実施目標」については、いかがですか。

[菊池委員]：いつもきめ細かな配慮が感じ取れるので、「S」と評価しました。

[柏木委員]：コロナ禍後に数値目標を「S」まで回復させているところから、実施の取り組みにおいて様々な努力をされているということが読み取れます。対面のワークショップの再開など新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでいたもの、やむなく中止していたものをリセットして再び起動させていくということには多大な努力が必要であり、「S」と評価しました。

横浜美術館はコロナ禍の始まりと同時期にリニューアルのための休館期間となり、そういった状況からの再開なので横須賀美術館とは状況が異なります。横須賀美術館はコロナ禍で中止となっていた、やむなくできなくなっていたものを再開して継続させていくというところに大変努力を感じます。

[前波委員]：託児サービスについて、利用者があまり多くないのは、サービスが知られていないのか、ニーズがないのかというコメントをさせていただきましたが、評価報告書の30ページで「託児の利用者数を目標値に含めないこととしましたが、託児は引き続き実施されます」とあり、安心感をもって利用し続けていけるような方向性で検討いただいているのだと、一利用者としてありがたいと感じました。

一点質問です。評価報告書の31ページに「福祉関連イベントとして、市内の作業所や福祉施設、放課後デイを対象としたワークショップを開催しました。」とあり、事務局からの説明でも触れられましたが、美術館側の呼びかけで行われたのか、施設側の要望で実施に至ったのか、いかがでしょうか。

[富田学芸課長]：令和元年度から実施している事業で、美術館からお声がけして参加していただいています。元々そういった活動をしたいという気持ちが美術館にあり、障害福祉課（当時）に相談しました。参加可能な施設がないかなどリサーチし、参加対象である通所者の前にまずスタッフに声をかけて、始めたという経緯です。

[小林委員長]：S評価の委員とA評価の委員がいますが、その点いかがでしょうか。

[前波委員]：一次評価に倣いましたが、サービスは充実しているのでSでもよいと考えます。

[小林委員長]：その他特にご意見がないようでしたら、⑦の「実施目標」は総合的には「A」と評価したいと思いますのですが、いかがでしょうか。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：評価としては「A」でも、素晴らしい取り組みをされていますので、引き続き前に進めていっていただきたいと思います。

[小林委員長]：次に、目標⑧の「達成目標」ですが、いかがですか。

[小林委員長]：特にご意見がないようでしたら、一次評価と二次評価のとおり、⑧の「達成目標」の評価は、「A」でよろしいですか。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：次に、「実施目標」については、いかがですか。

[菊池委員]：達成目標と実施目標に共通する考え方ですが、S評価になることはありえない項目で、運営に携わる人がサービスの低下を防ぐための指標だと思いますので、バランスよくコスト意識を持ちながらの運営を続けてA評価を維持していけば問題ないと考えます。何%削減すればよいというものではありません。

[小林委員長]：それでは、⑧の「実施目標」の評価は、「A」でよろしいですか。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：最後に感想を述べます。美術館の利用のされ方について、まず展覧会に来た人数で議論されることが多いです。「鈴木敏夫とジブリ展」は成功で、何万人観覧と良い数字が報道されました。しかしながら、人数だけでないところを整理して分析していくことが必要だと思います。人数だけを追っては厳しい状況になっていってしまうと思いますので、そういった人数だけではない整理分析をしていってほしいと思います。

[小林委員長]：それでは、「令和5年度 横須賀美術館運営評価の方法について」ですが、いかがですか。

[事務局・下田哲]：前波委員から「例えば、部屋を出て館内を回ってみる、新たな取り組み、重要な取り組みについては実際にその場に行ってみるなど、実際にその場で見る時間などあれば、具体的な疑問や意見もでてくるのかと思いました。」というコメントをいただきました。この運営評価委員会については、年3回、基本的にワークショップ室で開催しておりますが、今回新たなご意見をいただきましたので、事務局としましても新たな取り組みとして、委員の皆様実際に現場を見ていただくなど検討させていただきますので、何か進捗があれば報告させていただきます。

[小林委員長]：運営評価の方法については、問題ございませんでしょうか。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：それでは委員会の審議としては以上といたしまして、事務局にお返しします。

[事務局・下田哲]：本日議論いただいた二次評価内容は事務局でまとめ、評価報告書に加えまして、委員の皆様へ送付させていただきます。

委員の皆様には、最終のご確認をしていただき、修正等ございましたら事務局にご連絡いただき、その後は委員長一任として完成としたいと考えます。

[全委員]：異議ありません。

【3 その他 今後のスケジュールについて】

[小林委員長]：次に、3その他「今後のスケジュールについて」、事務局から説明をお願いします。

[事務局・下田哲]：それでは、資料3「運営評価委員会スケジュール」をご覧ください。

まず、本日第1回会議でご議論いただき、決定した二次評価をもとに、令和5年度評価報告書を作成し、委員の皆様へ送付させていただきますので、再度ご確認いただきますようお願い

いたします。その後、確定した評価報告書は、後日当館のホームページで公開させていただきます。

次に、表の下段をご覧ください。第2回委員会では、11月12月を目途に令和5年度の事業計画に関する中間報告書を作成し、委員の皆様にご覧いただき、ご意見をいただくようにいたします。現時点では、書面会議での開催を予定しています。

また、来年3月に開催する第3回会議では、令和7年度事業計画の案をお示するという流れで進めてまいります。

今後のスケジュールについては、以上となります。

[小林委員長]：今後のスケジュールについて、委員の皆様から何かありますでしょうか。

[全委員]：異議ありません。

[小林委員長]：最後に、事務局から何かありますか。

[岡本課長]：長時間に渡り、ご審議いただき、ありがとうございました。

ご意見をもとによりよい美術館を運営していきたいと存じますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

【閉会】